

地域との連携によって 目標を持って生き抜く力を育成

新潟県 教育委員会

新潟県教育委員会は2011年度から、小中高を通した「新潟っ子をはぐくむキャリア教育」の導入を進めている。郷土に根ざし、社会の情勢変化に柔軟に対応できる「生き抜く力」を身に付け、夢や目標を実現するための行程を描くことができる児童・生徒の育成に地域と連携して取り組んでいる。

3地域でテーマ別の パイロット事業を展開

新潟県教育委員会は、教育振興基本計画や学習指導要領に基づくキャリア教育の推進のため、2008年度に「個を伸ばす教育推進検討会」を設置し、「一人ひとりの個性を尊重し、その“個”を伸ばす教育の核として、勤労観や職業観の育成を着実に挙げる。郷土への誇りと愛着を醸成し、アイデンティティを確立しながら、主体的に自分の将来を設計できる力を地域参画型で育む」という基本理念を定めた。

県では以前から、高校卒業生の多くが進学や就職のために県外に流出することを問題視してきた。そのため、地域で活躍する人材を育成すべく、小学生のうちから郷土への誇りと愛着心を醸成することを重視している。

この基本理念に沿ったキャリア教育を推進するための調査研究として、2009、2010年度に「キャリア教育パイロット事業」を実施した。実践と検証、視察や研修などを通じてモデルプログラムを策定するのが目的だ。実施対象として、キャリア教育の取り組み

が進んでいた上越市・柏崎市・長岡市の3地域から複数の小中高を選定。いずれも、小中高間の連携や交流、地域との連携、夢や目標を育むための取り組みなどを積極的に行った。

取り組むテーマは、各校および地域の個性に合わせて設定された。上越市では、小中高を通じてあいさつ運動に取り組んでいたことから、「郷土への愛着をキーワードとした小中高の系統的なキャリア教育」をテーマに、教育プログラムの研究・開発が行われた。

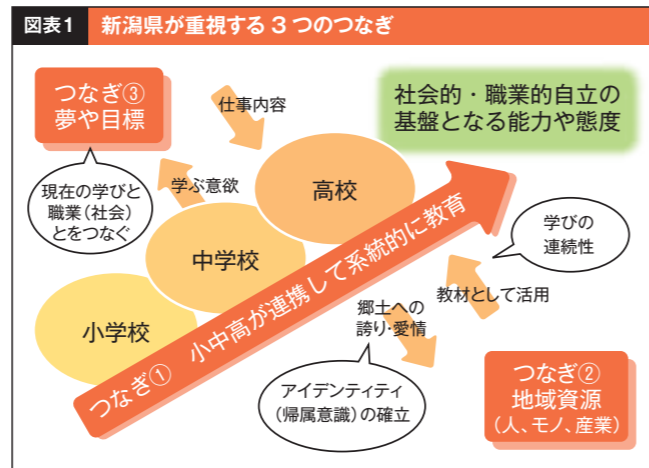
地域との連携を進めていた柏崎市は、「地域応援隊によるキャリア教育の推進」をテーマとして、商工会議所などと連携。地域組織による支援効果の検証が進められた。

長岡市では、小学校ではプロスポーツ選手などの話を聴く特別授業「夢先生」が、中学校では職場体験が、農業・商業・工業高校では合同によ

る模擬企業の活動などが、すでに実践されていた。これらを生かし、「夢を描く力と生き抜く自信を育むキャリア教育環境の充実」をテーマに、キャリアプラン作成支援の研究が行われた。

2年間の成果を基に 「3つのつなぎ」に着目

パイロット事業終了後、県教委は、3地域の児童・生徒にアンケートを実施し、国立教育政策研究所が2002年に示した「職業的（進路）発達に関わる諸能力」の4領域の力（人間関係形成能力、意思決定能力、将来設計能



図表2 「新潟っ子プラン」のモデルプログラムシート（キャリアプランニング能力の箇所を一部抜粋）

小学校期			中学校期	高等学校期
低学年	中学年	高学年		
地域に根ざして自立する新潟っ子を育てるために期待される具体的な能力・態度の例 (新潟の児童・生徒に対して、社会的・職業的自立に向け、キャリア発達を促すために育成することが期待される具体的な能力・態度の例)				
じぶんのとうぼんやかかりのしごとは、みんなのやくにたつともう。 係、給食、清掃、当番活動 など	一人一人が自分のやくわりをはたすことで、学級の生活がよくなると思う。 学級会活動 など	将来、仕事をする中で、人々の生活や社会の役に立つと思う。 職場見学 保育園や高齢者施設でのボランティア活動 外部講師の職業講話 など	自分の役割や仕事の社会的役割の意義を理解し、将来について考えている。 外部講師の職業講話 進路学習 起業学習 など	自分の役割や仕事の社会的役割や意義を理解し、自分の生き方を考えている。 インターンシップ、職場見学 10年後の私 起業学習 巣立ち教室 など
はたらいている人のようにするみるのはたのしい。 まちたんけん など	世の中にはたくさんのしゅるいの仕事があることがわかる。 社会科見学 など	学校での学習やさまざまな活動は、将来仕事をするにつながつていっていると思う。 日本の産業学習	自分の将来のためには、今の学習や活動は意義があり、大切であると思う。 外部講師の職業講話 起業学習 など	将来設計に基づいて、今取り組むべき学習や活動の意義を理解している。 インターンシップ、職場見学 起業学習 など

①各校の既存の活動を整理する。▶ ②その後、各校の特色を生かした教育プログラムを組む。

力、情報活用能力)の習得度を調べた。その結果、どの地域でも4つの能力が高まっていた。

このことから、小中高が連携し、地域の協力を得てキャリア教育を行うことは、進路目標を持ち、それを実現するためのさまざまな能力を高めるのに有効であるという結論に至った。県立教育センターキャリア教育推進ステーションの田中範克指導主事は「小中高の系統的な学びを意味する“小中高のつなぎ”、地域資源を生かして郷土愛を育むことを意味する“地域のつなぎ”、夢や目標を持たせることを意味する“夢や目標のつなぎ”の『3つのつなぎ』が、成果を上げるポイントだと考えている」と話す(図表1)。

小中高のつながりを モデルプログラムで明示

パイロット事業の成果を生かして策定されたのが、県のキャリア教育のモデルプログラム「新潟っ子プラン」だ。実施初年度の2011年度は、30市町村のうち10市町村に導入。前述の職業的（進路）発達にかかわる諸能力の4領域、および中央教育審議会の答申「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」で示された「基礎的・汎用的能力」に加え、県教委が重視する「郷土愛」を加えた5

つの視点で育てる力を整理。小中高それぞれで、児童・生徒が「何ができるようになるか」を一覧化した「モデルプログラムシート」を作成した。

例えば、キャリアプランニング能力であれば、小学校低学年は「働いている人の様子を見るのは楽しい」だが、中学校の場合は「自分の将来のためには、今の学習や活動は意義があり、大切であると思う」に発展・成長する。

ただし、これはあくまでもモデルプログラムだ。「これを基に、プログラムを“自校化”してもらおうのが『新潟っ子プラン』のねらい」と田中指導主事は話す。自校化は大きく分けて2段階で進む。まず、各校が行っている学習や課外活動などを5つの視点に沿って整理するのが第1段階。学級会活動や社会科見学などが、「新潟っ子プラン」のどの部分に相当するのかわかり、過不足が判断できる。次に自校の特色を生かした教育プログラムを組むのが自校化の第2段階だ。

モデルプログラムシートを見ると、今の学びが他の学校段階の学びとどのようにつながるかが、ひと目でわかる(図表2)。したがって同じモデルプログラムに基づいて、他の学校段階とのつながりを意識した教育ができる。つまり、なぜ今、このことを教えるのか(学ぶのか)を理解できることがシートの特徴だ。

大学との連携も視野に 地域の教育資源を生かす

新潟っ子プランの実施状況を関係者が相互に確認し、一体感をより高めようと、2011年12月には、小中高それぞれの成果を県内の教員に紹介する「いがたキャリア教育フォーラム」を開催した。小学生は米作りについて報告し、栽培した米を会場で販売。中学生は観光ボランティア活動について発表し、作製した観光マップを配布した。高校生はスーパーサイエンスハイスクールの海外研修などの成果についてプレゼンテーションした。

教育センター教育支援課の石田清彦指導主事は、「教員、児童・生徒がそれぞれ刺激を受けていた。小学生が中学・高校生となど、互いに接する機会はありません。教員にとっては、自分が教える児童・生徒がどう成長するか、かつてはどうだったのか、イメージをつかめたようだ」と話す。

県教委は、県内の企業、JA、商工会議所などを訪問し、職場体験への協力を要望している。田中指導主事は、「特に大切なのは夢や目標を持たせて、キャリアプランニング能力を身に付けさせること。多くの体験を積み重ねることによって、具体的な夢や目標を持つようになるはず」と説明。今後は大学にも連携を働き掛けたい考えだ。